

様式第2号(第7条関係)

会議結果報告書

令和8年7月23日

会議の名称	第6回（令和8年度第1回）舞鶴市市史編さん委員会		
種別	☒ 附属機関 ☐ 懇話会等		
開催日時	令和8年6月18日（木）18時～19時40分		
開催場所	西総合会館 2階 市史編さん室		
出席委員	東委員長、加藤副委員長、上杉委員、児玉委員、廣瀬委員、吉野委員		
議題	(1) 舞鶴市市史編さん委員会・部会の7年度活動実績について (2) 新修・舞鶴市史編さん実施計画の一部改定について ⇒ 承認 (3) 新修・舞鶴市史執筆要項の一部改正について ⇒ 一部修正、承認 (4) 刊行物の体裁・仕様について ⇒ 承認		
公開の区分	☒ 公 開		
	☐ 部分公開		[理由]
傍聴者数	なし		
審議結果 及び 主な意見等	別紙のとおり		
会議録の作成 様式	☐ 詳 細 ☒ 要 約		
備考			

担当課	舞鶴市生涯学習部歴史文化まちづくり課（市史編さん） TEL (0773) 68-9556
-----	---

舞鶴市市史編さん委員会 第6回会議議事要録

○日 時：令和8年6月18日（木）午後6時～7時40分

○場 所：舞鶴西総合会館 2階 市史編さん室

（市外委員 4 名はオンラインによる出席）

○出席者：東委員長、加藤副委員長、上杉委員、児玉委員、廣瀬委員、吉野委員

○舞鶴市：生涯学習部歴史文化まちづくり課（神村課長、田中係長、吉岡、石原、濱野）

○傍聴者：なし

《次第》

1 開 会

2 開会挨拶（神村課長）

3 協議事項

(1) 舞鶴市市史編さん委員会・部会の7年度活動実績について

(2) 新修・舞鶴市史編さん実施計画の一部改定について

(3) 新修・舞鶴市史執筆要項の一部改正について

(4) 刊行物の体裁・仕様について

(5) その他

4 連絡事項その他

5 閉 会

《3 協議事項概要》

(1) 舞鶴市市史編さん委員会・部会の7年度活動実績について

【事務局より、資料2に基づき、各部会等活動の主なものについて説明】

- ・文化遺産部会の民俗については、刊行時期が後の方ではあるがまだ動いていない。民俗行事は年に1回しかないものも多く、またその日が雨だったりして調査できないケースも想定される。そう考えると、直前から始動してもちょっと難しい場合があると思う。今、どのような状況かわかる範囲でお聞きしたい。

●事務局／まだ動いていない。先月に開催された文化遺産部会でも話が出て、今夏くらいに民俗グループの委員と今後の具体的な活動について話をする機会を設けたいと考えており、部会長ともそんな話をしたところである。

- ・委員と少し話をする機会があり、現在、府庁で機動的に動くのが難しい状況にあるとのこと。委員にフォローしてもらいながら丹後におられる委員を中心に、お二人と相談しながら今年からでも動ける形をとっていきたいと考えている。

(2) 新修・舞鶴市史編さん実施計画の一部改定について

【事務局より、資料3に基づき、資料編/文化遺産（地形・地質）の刊行時期を令和

【9年度から10年度に見直すことについて説明】

- ・（委員長）文化遺産部会長から補足などがあればお願いします。
- ・事務局から説明あったように、地形・地質編について、より充実した内容にしていきたいということで、文化遺産部会においてその刊行時期の延期が了承されたものであり、本委員会で承認いただきたいと思っている。懸念されたのが、他の刊行物と時期がバッティングすることであったが、大きく支障はないとのことでもあったのでお諮りさせていただいたものである。
- ・（委員長）本改定案についてご意見などあれば発言を願う。〔⇒特になし〕
- ・（委員長）本改定案について賛否をとる。賛成の委員は挙手を願う。
- ・（委員長）挙手全員により、本案は承認された。

(3) 新修・舞鶴市史執筆要項の一部改正について

【事務局より、資料4に基づき、主な改正箇所と理由について説明】

- ①P4、9(6)／わかりやすい市史を編さんしていくうえで、図表や写真など多用していく計画としているが、それら表題を巻末に一覧表示することは相当数のページを使用することになるため掲載しないこととし、削除するもの。他市事例でもこの掲載しないケースが多い。
- ②P4、11(6)／略称例示が必ずしも適切ではなく、また本規定の趣旨は次号（7）でカバーできることから削除するもの。
- ③P5、12(1)／1テーマ見開き2ページを基本としている中で、限られた原稿文字数への影響が大きくなることから、巻末掲載に修正するもの。
- ④P5、15(3)／下線箇所は細目であり、執筆のルールというより仕様といえることから削除するもの
- ・作業イメージを描くためにお聞きする。資料名等は凡例に明記したうえで本文では略称を用いる、という箇所が削除され、頻出する資料名等の略称は節の初出で示すとされているが、節の中で多くの執筆者がいる場合、初出であるかどうか、どこで記載するか判断が難しい。原稿ができ編集のところで統一する作業工程になるのか。
 - ☛事務局／一旦事務局で原稿を集約する。原稿執筆時点では省略されてるかわからないけれど、最終的に全体の中で、省略・調整させていただき、整理したいと考えている。
- ・一つの節のそれぞれの執筆者は、そこまで意識せずに執筆すればよいということを確認した。
- ・削除する部分（凡例に明記…）は資料の所蔵機関が大きいのではないかという気がする。執筆段階では、執筆者は正式名で書いておいて後で調整するという基本はそれでよいと思うが、例えば、郷土資料館など頻出するものは節の初出でなく、巻の始めに凡例として書いた方が逆にやりやすいということもある。残っている規定は本文をイメージされているのかなと思う。資料の所蔵先は削られたからといって凡例に書いてはいけないということはないと思うので、削って問題ないと思うが、所蔵機関がかなり重複するかと思う。そこは凡例に入れて一括してもOKにしておけばよいと思うが、その点いかがか。
 - ☛事務局／表現を工夫して記述してもよいが、ほかの委員さんのご意見もうかが

いたい。よりわかりやすくしておいた方がよいということは理解した。

- ・個人的には凡例に一括して書くかは各巻での判断かなと思うので、必ずしもここに書かなくてもよいと考える。各巻の担当者はほぼここにおられるし、主な所蔵先については凡例で書くとか、その都度決めたらよいと思う。その都度決めるという根拠を持っておこなうなら書いておいてもよいが、私はどちらでもかまわない。

☛事務局／ その方向で進めていただくことで了解した。それを記述するかどうかは改めて整理させていただきたい。

☛事務局（課長）／ 今の話は基本的に本文に関わるところであり、キャプション部分というのは最終的に編集の中で確定してくるものかなと思う。例えば右左とかっていう表記をしたりするのは最終的に図版の位置が固まってからでないといけない。基本的にはそこは編集というか事務局の裁量というか、最終的な編集責任は事務局に多くあるということでご理解いただきたい。あくまでも、執筆要項は本文を書くときの基準ということでご理解いただきたい。

- ・主要参考文献は巻末に載せるということで今回変更になっており、そのイメージであるが、執筆者が書いた見開きの最後のところには記載しないということによかったか。

☛事務局／ 仰せのとおり。

- ・主要参考文献という表現が気になる。執筆にあたり利用した論文なり 文献は網羅的に載せるのか、その冊子を理解するためには既に出版されているこういったものを読んでおくといよい、というようなイメージかどっちなのか。主要参考文献と書かれると、その個別の論文というよりは、関連する冊子にこんながあるというイメージになる。主要参考文献リストと言われると主要の部分と個別の論文とはちょっと違うかなと思ったので、全部入れたらいいと思うが、いかがか。

☛事務局／ ほかにもご意見をお聞かせ願いたい。

- ・これは執筆文字数を確保するというで提案されていると思うので、例えば後ろの参考文献のところにはそういう論文とか冊子とか全部含めて書いて、見開きのところには、例えばそこに番号をつけてもっと詳しく知りたい人は見てねとかっていう感じにすればすごく減るのかなと思う。一方で、例えば参考とした論文にたどり着ける方法は残してほしいと思う。そのあたり工夫の余地はいろいろあるのかなと感じた。
- ・私もほぼ同様の意見で、今やっている他の自治体でもほぼ全部載せているが、それほど多くはない、逆に言えばすべて載せてバランス悪い場合にどうするかというのが、例えば中世と近世ではある。今後、PDF化し公開していく中で、やはり検索で引っぱりやすくすることも大事だと思うので、可能な範囲で載せていったらよいと思う。
- ・現代編では概説はあるが、かなりトピックになってくるので、いろんなものを引いていくというのは現実的にあまり考えにくいかなという気がする。資料4の要項12に記載されている主要という言葉は抜いていても大きな問題にはならないと考える。1つの節だけで20、30もあつたりするが、市史なのでやはりちゃんとソースを載せておくことは大事である。従って、こう書かれてしまうと主要なものしか載せてはいけないというふうにとらえられる。それより参考文献は基本載せるということで、この主要を取ってしまってよいと思う。あまりに長い場合は、例外的に事務局で調整する扱いでよいと考える。

- ・賛成する。文献はできるだけ載せて出典に遡れたらよいと考える。
- ・（委員長）まとめると要項12の主要参考文献、また(1)の主要参考資料の主要をはずす修正を行う形で進めることとするが、最後に承認をとる。
- ・（事務局・課長）確認になるが掲載箇所は巻末で良いか。
- ・（委員長）違和感はなく、また全体が一覧できるので巻末でよいと思う。。
- ・本文の中に例えば番号を付してどの文献を参照すればよいかわかる形になっていれば巻末で問題ない。
- ・各節や各章で同じ参考文献を引いていても要は1つで済むっていうところもあり、また、見開きでなるべく文章を書けるようにという趣旨から考えても巻末で問題ないと思う。
- ・巻末でよい。
- ・私もそれで良いと思うが、実際にできるだけ多くの参考文献を掲載するとした場合、それぞれの執筆者から参考文献から出てくると思うが、200ページという限りのある中で、参考文献の掲載が何ページぐらいになるのかを想定したらいいのかなと思っていて。現実的には、テーマ数も含めシビアに見ている中で、参考文献だけが増えていくというのは少しバランスが悪いのではないかなという気がする。200ページの中で参考文献で何ページ分ぐらいを使ってもいいとイメージされているか。
- ・絵図・地図編では多分それほどない。2ページぐらいで十分収まると思う。現代編はちょっとわからない。何々統計みたいなものをずっと書いていかないといけないということあるので4ページとか。その統計とかも何々統計何年何年と全部書くのか何年から何年までと一括にするのかとかその辺もあり、現代編はわかりにくいけど実質はそれぐらいかなと思う。各資料編で考えると、多分巻末の参考文献のフォントは小さいだろうし、まあまあ書けるのではないかなというイメージである。
- ・200ページあって、そのうち参考文献で10ページもあるとこれはちょっと多すぎると思う。そうすると私も4ページぐらいがマックスかなと思う。ポイントもできるだけ小さくしてもよいと思う。例えば4ページまでにしてそこから洩れてしまうものはやむを得ない。できる限り載せた方がよいが、参考文献の割合が多くなるのは違和感がある。
- ・考古・古代・中世は、かなり時代的な幅が大きいので、参考文献というのは想像にもなるが、たくさん出てくるのかなという感じがしている。今、大体4ページぐらいが目処じゃないかという話をいただいて、私もそれぐらいかなという感じがしている。その4ページ内っていう枠をあらかじめ執筆する先生方に示しながら参考文献を出していただくという形でお願いしていきたいと思った。
- ・（委員長）4ページ程度という形にする。京田辺市史でも400ページあるが2ページぐらいなので、それに対応できると考える。また、事務局と相談しながら進めていく形とし、主要という言葉削除することで進めていくこととしたい。そのほかに意見はないか。[⇒特になし]
- ・（委員長）それでは、要項12について、主要参考文献及び主要参考資料の主要を削除することとし、その他は案通りの修正とすることについて賛否をとる。賛成の方は挙手をお願いします。
- ・（委員長）挙手全員なので本修正案は承認された。

(4) 刊行物の体裁・仕様について

【事務局より、資料5に基づき説明】

- ①1テーマ見開き2ページを基本するということでそのイメージを前回会議で提示した経過がある。その後、各部会で共有しご意見をいただき、また、今年度から執筆作業にも入っていくことから、さらに具体的な仕様、組版など固めておきたいということから提議するもの。
 - ②そのイメージとなる資料5の2枚目資料を中心に説明
- ・資料3枚目のサンプルで、下余白12mmで結構下詰めであるが、ページ数はどこにうつのか。
 - ☛事務局／ページ数はここには書いてないがこの枠内に入れる。
 - ・12mmの余白では狭くないのか。
 - ☛事務局／他市の市史も参考にしたが違和感なく見える形である。
 - ・版を大きくするのは賛成する。しかしあまりに詰め詰めだと格好悪いと思ったが、それなら了解した。
 - ・この資料でかなりイメージはできた。一方で、担当している文化遺産部会の中では図版や内容でいろいろと個別の事例みたいなものが出てくるのではないかと考えている。見開き2ページはこれでよいが、歴史遺産、例えば建造物などの文章（本文）は1段が2段なることもあるかもしれない。また写真で、棟札など縦に長いものもあるが、ある程度柔軟に考えてもよいのか。
 - ☛事務局／刊行物によって、もちろん掲載の体裁が変わる可能性はあるかと思う。これは見開き2ページの基本ということなので、そこは柔軟にやっていけばよいと思うが、本文やキャプション、図表のポイントなどは共通仕様でお願いしたいと考える。
 - ・文化遺産ではいろんなパターンがあると思うので柔軟に対応できればありがたい。ポイントをあわせるなどは了解した。
 - ・本委員会として共通理解ということで行くと、これがベースのフォーマットになるだろう。絵図・地図編もこれにあてはまらないというか、地図の形に制約されるケースが出てくる。その際、基本フォーマットでいくと1400字程度であるが、それを超えてはだめとするのか。レイアウトは組んでいく時に変わり、それによってたくさんの文字になってしまうというか、図表がごちゃごちゃになってしまうとか、イレギュラーなものが出てきた時に空白っていうのを本文で埋めてもいいのかとか、本文の最大文字数はこれという風にするのか、みたいなところはこの委員会で考えておいてもいいのかなと思う。
 - ・（委員長）資料編も図表がなければ少し本文が増えるという可能性も十分あるので臨機応変に、と思ったりしている。皆さんいかがか。
 - ・私もどちらかというと臨機応変の方が書きやすいかなと思う。その一方で基本見開きでやろうとしているので、なるべく見開きに合わせるという形で、その見開いた状態で完結するということはやはり目指すべきだと思う。資料編などもその部分があると思うが、どうしても難しい部分は出てくると思うので、その辺りは、なるべく柔軟に、例えば文化遺産の方でも地域で分けて、東と西で巻を分けて、さらにその中から

地域とか寺とかとなってくると結構色々なパターンが出てくる見込みである。その辺りはなるべく柔軟にやりながら、一方で見開きの方はなるべく見開きに合わせるというのは両方があってよいかと考える。

- ・考古・古代・中世は来年度の3月に発刊という予定になっていて、今年度、執筆が始まっている状態である。原稿の50%は9月にまでに出してくださいとお願いをしている。いずれにしても一番早く刊行するのは考古・古代・中世と引揚港となっている。細かいところで言うと、そこが前例になってしまうのではないかと考えていて非常に責任が重い。途中で本委員会に相談させてもらうようなことが生じるのではないかと考えているので、その際にはよろしくお願いしたい。資料にあるこうしたイメージ図がないとわかりにくい、逆にこれに縛られすぎるとしんどくなるので、このイメージは大切にしながらも柔軟に対応していく。市史をみてパッと見てよく見え、読もうかなと思ってもらえるものになれば、その方がやりやすいのではないかなと思う。
- ・レイアウトを基本にしつつも柔軟に対応していくことに賛成する。
- ・レイアウトについては、京田辺市史をやっているときに執筆料の支払いを文字数とするのかページ数とするのかというところも関係してきて、ページ数であればレイアウトが自由に組めると思うが、文字数であればそれにより金額は変わったり制約も生じてくるところもある。そう考えると、見開きのページで支払いするというのが明確でよいのかなという気がする。
- ・（委員長）見本は大事である。いろんな分野があって刊行物も違うので、だんだん変わっていくようなところも出てくるかもしれない。また、執筆料については大体ページで行っているところが多い。また、先ほどコメントあったように最初に刊行されるところがひとつのモデルになると思うし、そこからまた考えることもあるだろうし、そんな形で進めていければと考える。この見開きの体裁については、刊行物の全体共通仕様となるので、各部会に共有していただくようお願いする。

(5)その他 [⇒特になし]

4 連絡事項その他

【事務局より、今後の予定等について説明】

- ①本会議の議事要録案をまとめ、メールにて各委員にご確認いただく。
 - ②次回会議は当面は予定なし。必要が生じれば委員長と調整し決定する。
 - ③それまでの間、共有すべき事項等があればメール等を利用するほか、外部共有ドライブも活用していきたい。この6月からは各部会の調査等活動予定や事務局の主なスケジュールを一覧にしたものをアップし、随時更新していくので参考にしていきたい。
- ・共有ドライブについて、絵図地図グループで月1で研究会をしており、その資料をドライブにアップできないと所属の委員から聞いた。どういう仕様かわからないし無理なら仕方ないが、データを共有ドライブのフォルダに入れることができればありがたい。

- 事務局／外部共有フォルダについては、絵図地図グループのフォルダも設けており、アップロードできるはずである。それができなかったということなら、デジタル担当に確認してみる。掲載されている資料データを閲覧できるだけではあまり意味がなく、有効活用できないといけない。
- ・考古・古代・中世編については来年度刊行であるが、その原稿は今年9月に1次締切、来年3月が最終締切と言われている。再来年、現代編と絵図・地図編が刊行となるが、執筆者にどう伝えたらよいか。10年度に3巻出すとなれば、年度末に全部揃うのがよいのか、それぞれの時期をずらしていくのか、それによって原稿提出の時期も変わってくるのかなと思った。来年度刊行がモデルケースになると思うが、10年度刊行でも原稿提出時期が結構早めとなるとそうした話をもう始めないといけないので、そのスケジュール感をお聞きしておきたい。
- 事務局／考古・古代・中世編の刊行については、余裕をもったスケジュールを組んでいただいております、原稿提出は今年度前半で50%、年度末で100%を目標として進めていただいております。一方、引揚港編は、現時点では遅くとも来年夏までに原稿を仕上げる目標で進めていただいております。入札をどのタイミングでしていくかは今夏決める予定であるが、事務的な作業（事務局）は、考古・古代・中世編を先に取りかかり、後半で引揚港編という形を考えている。10年度は3巻となるので、それらが同時となると事務局としても少しきついで、入札や原稿提出含めた前作業のスケジュールをどういう形で組んでいくのか、部会やグループと調整させていただきたい。
- ・了解した。10年度刊行についても、そろそろそこをしておかないといけない。事務局としても3巻はかなり大変になってくるし、9年度は刊行しつつ、10年度の取りまとめもしていけないといけない。自転車操業が続いていくが、早めに調整していただければよいのかなという気がする。どの部会も遅い方がよいに決まっていると思うので、事務局でそこはこう決まったみたいな形でよいかと考える。
- ・引揚港編は来年夏までに刊行できるのか。
 - 事務局／原稿締切が来年夏まで、ということで刊行時期は年度末になるかと思う。
- ・半年でできるだろうか、ハードである。事務局が頑張らないといけない。
- ・（委員長）私もそう感じる。原稿締切も早め早めにして、それでも遅れる人はいるし、病気や諸事情もあつたりするので、そうした想定外の事態にも対応できるようにしていただきたい。全体通してほかに何かあるか。〔⇒特になし〕
- ・（委員長）事務局で本日の協議内容を取りまとめていただき、情報共有をよろしくお願いする。以上をもって第6回市史編さん委員会を終了する。